

日本に初めて打ち上げられたシロナガスクジラ

たるはじめ さきやまだだお すずきさと たじま ゆうこ
 樽 創¹・崎山 直夫²・鈴木 聡¹・田島 木綿子³
 1: 当館学芸員, 2: 新江ノ島水族館, 3: 国立科学博物館

神奈川県に漂着したシロナガスクジラ

2018年8月5日に1頭のヒゲクジラが、鎌倉市の由比ヶ浜に漂着しました。全長が10 mほどのヒゲクジラでした。その後、これまで日本の海岸に打ち上げられたことのない種類のヒゲクジラであることが分かりました。

その日の17時頃、著者の一人の樽は観音崎自然博物館でゾウの化石についての講演をして、ちょうど帰ってくる途中でした。携帯電話には、すでに著者の一人の崎山からの着信があり、また、日本セトロロジー研究会の石井雅之さんからもそのクジラの話が留守番電話にありました。2人ともその時、ヒゲクジラの打ち上げられた場所にいたのです。その時はイワシクジラらしい、という話も出ていたそうです。そうしたところ、著者の一人の田島から、山田 格^{ただす}名誉研究員は「シロナガスクジラではないか?」と推測している、と連絡がありました。

観音崎自然博物館から新江ノ島水族館までに向かう途中、鎌倉市の由比ヶ浜海岸を左手に見ることができます。海のそばを通過した時には、その日に集まった研究者たちは既に帰り、夕暮れの中で大勢の人に囲まれた、ヒゲクジラが横たわっていました。

その後、新江ノ島水族館に立ち寄り、崎山に会い、田島とヒゲクジラの確認を急ぎました。崎山がその日撮った多数の写真は、同定に役立ちました。青灰色の体表上に白い斑紋^{はんもん}が浮いていること、胸ビレの形、背ビレの位置などと畝状の凸凹^{うねじょう}が腰部にあることなどから、シロナガスクジラの幼獣(図1, 2)であることがわかりました。ここまでは、その日の21時ごろまで



図1. 畝状の凸凹がある体。A: 体の下側から写真と、B: 体の右横からの写真。

に判明したことでした。

翌朝、樽は7時半ぐらいに由比ヶ浜海岸に着きました。到着すると、新江ノ島水族館の崎山、西谷知佳さん、加登岡大希さんと国立科学博物館の田島、山田さんほか、石井さんなどがすでに現地に着いていました。シロナガスクジラは、腹部を上にして横たわっていました。ペニスが見えたため(図3)、オスであることがわかりました。

シロナガスクジラの名前

和名はシロナガスクジラ、学名を *Balaenoptera musculus* (Linnaeus, 1758)、英語ではBlue Whaleといいます。シロナガスクジラは、漢字で書くと白長須鯨です。英名は、体表が全体に灰色から青灰色に、白いかすり状の模様があることからつけられた名前です。

シロナガスクジラが記載された1758年は、動物命名規約(動物の学名をつける時の決まりごと)の基準である「Systema Naturae」の10版が出版された年です。

つまり、シロナガスクジラは、今から260年も前に命名されていたのです。学名の *Balaenoptera* はギリシャ語でクジラを意味する *balaena* と、翼またはヒレを意味する *pteron* を合わせてラテン語化したもの、種小名の *musculus* はラテン語で筋肉と小ネズミを意味するようで、リンネは両者を踏まえたようです。

シロナガスクジラの大きさ

シロナガスクジラは、世界で最も大きな哺乳類です。成獣で全長33.6 m、体重は177 tにもなり、幼獣のサイズは全長6~8 mとされています(バルタ, 2016)。今回のシロナガスクジラは全長10.52 mの幼獣でした。当初イワシクジラか?と考えた人がいたのは、波で近寄れない中、前肢後端のすぐ後で終わる短い畝だけ見えたためです。ましてこの個体が、シロナ



図3. 生殖器(ペニス)。



ガスクジラとは思わなかったのでしょう。あとでわかったのですが、解剖にあたった田島は、全長10.52 mあるのに脊椎骨でさえ癒合が進んでいなかった（幼獣の脊椎骨は6パーツからなる）ことをみています。

シロナガスクジラの分布

シロナガスクジラの漂着は、国立科学博物館の海棲哺乳類ストランディングデータベースと石川ほか（2013）から、以下の3例が確認できました。国立科学博物館の1790年3月21日からのデータベースには、1870年2月1日の大分県臼杵市大泊町、および1878年の石川県珠洲市馬縹町鰐崎海岸への漂着の2件、石川ほか（2013）には1913年に鹿児島県の奄美諸島の請島への漂着記録がありましたが、どれも事実確認できる証拠資料が存在しないため、本当にシロナガスクジラだったのか検証することができず、疑わしいものばかりです。これらの記録時期から100年以上たった2018年8月5日、神奈川県鎌倉市の由比ヶ浜海岸に打ち上げられた本個体は、事実確認できる資料を伴い、シロナガスクジラとして同定されたので、これをもって国内初の確実な記録となりました。

シロナガスクジラの特徴

今回漂着したシロナガスクジラからは、新たに下記のことわかりました。

1. 体表に畝状の凹凸（在胎痕）があることから、哺乳期の

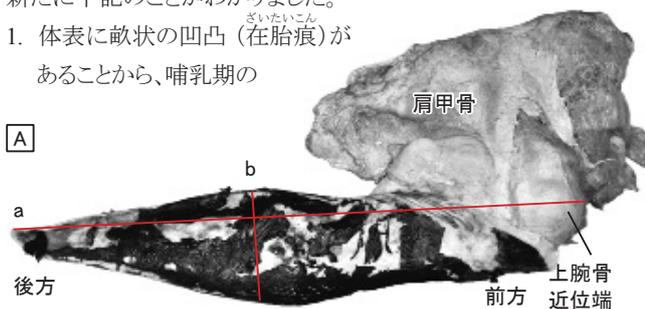


図5. 神奈川県立生命の星・地球博物館のシロナガスクジラ (KPM-NF1006081) の標本。A: 右前肢の外側面, B: 右前肢の内側面, a: 全長1.57 m, b: 全幅0.34 m. 哺乳類ボランティア: 菊川雅哉氏撮影

- 幼獣であることが判明。
2. 相対的に頭部が小さい: ヒゲジラの場合、摂餌行動が始まる離乳期から頭部が飛躍的に大きくなる。当該個体はまだ摂餌開始以前の哺乳期個体である。
3. 舌にフリンジ（母乳をこぼさないための構造）がある。
4. 背びれが体の中心より尾側にあり、相対的に小さい。
5. 灰色から青灰色の体表上に白い斑紋が見られる。
6. クジラヒゲが全て漆黒色である（図4）。
7. 前肢の外側が黒く、内側が白い（図5）。
8. 体の大きさの割に前腕が小さい。

シロナガスクジラの右前肢

当館では右前肢を標本として保管することになりました (KPM-NF1006081)。その標本の大きさは、長さ1.57 m（上腕骨近位端～ヒレの先端）、幅0.34 mで、肩甲骨も関節した状態で保存しているため、前肢骨全体が関節した状態を復元することが可能です。

このように、標本化に向けた作業は困難を極めるものでしたが、日本初のシロナガスクジラの標本を残すことができました。

謝辞

鎌倉市市民生活部、神奈川県藤沢土木事務所、国立科学博物館、神奈川県立

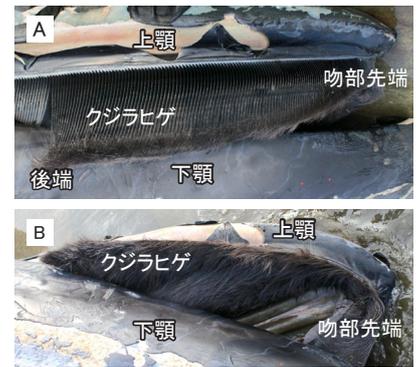


図4. 真っ黒なクジラ髭。A: 横から見ると規則正しく並んでいるように見えるが、B: 咬合面から見ると並びは不規則である。

生命の星・地球博物館の哺乳類ボランティア、および現地にいらした方々には、現場での撮影や標本作製などで大変お世話になりました。この場を借りてお礼申しあげます。

参考文献

アナリサ・ベルタ（編）山田 格・黒輪篤嗣（訳）、2016. 世界のクジラ・イルカ百科図鑑. 288 pp. 河出書房新社, 東京.
 石川 創・後藤睦夫・茂越敏弘, 2013. 日本沿岸のストランディングレコード (1901 - 2012). 下関鯨類研究室報告, (1), 1 - 314.
 国立科学博物館, 海棲哺乳類ストランディングデータベース. <http://www.kahaku.go.jp/research/db/zoology/marmam/drift/index.php?k=&x=0&y=0>



図2. シロナガスクジラ *Balaenoptera musculus* (Linnaeus, 1758).